

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: Room in New York)

《ニューヨークの拠点》

今回は度々このコーナーに登場していたニューヨークで暮らしていたアパートの部屋の話。

場所はマンハッタンのアッパー・ウエストで、詳しく説明すると West 78th Street 沿い、Amsterdam Avenue と Columbus Avenue の間にあった閑静な通りに立ち並ぶアパート群の一角にあり、直ぐ近くには 2006 年のヒット映画『ナイト・ミュージアム』の舞台になった「アメリカ自然史博物館」があった。

家賃は 1 か月 303 ドルで、電気代・水道代も全て込み。最初の 1 週間ほどは 2 階に住んでいたが、最上階の 4 階が空いたのでそちらに移動し、以後 4 年間ここで暮らしていた。

嘗ては黒人のメイドさん達が暮らしていたと聞いたことがあるが、大きさは日本の畳でいうと一回り大きめの畳で 3 畳分、日本の 4 畳半はないスペースだった。階下の大きな間取りの部屋にはトイレ・シャワーは付いていたようだが、自分の部屋は勿論、4 階の部屋は全てトイレ・シャワーは共同で、2 階、3 階の住民用と合わせて共同のトイレ・シャワー・ルームはそれぞれ 3 階と 4 階に一つずつあった。4 階には 6 部屋ほどあって、部屋の大きさはそれぞれ微妙に異なっていたが、自分の部屋は一番小さかったと思う。

大家さんは Sam という白人のおじいさんで、数ブロック離れた別のアパートに住んでいたが、日に 1～2 度地下からの入り口のフェンスに投げ込まれた郵便物を 1 階のアパート入り口脇にあった住民用の郵便物置き場に置くためにトボトボ歩いてやって来た。また、毎月の家賃は封筒に現金か小切手を入れて部屋番号と名前を書いて、地下からの入り口のフェンスに固定されていた鉄製のポストに入れることになっていたが、その直ぐ脇にあったゴミ置き場には毎晩のようにホームレスがゴミを漁りにやって来ていたので、今思うと物騒極まりない状態だった。Sam はいいおじいさんだったが、かなり高齢だったので今も元気ているのかは分からないが、あのゆっくりとしたロボット的な動きと、「Hello!」と声を掛けた時にちらっと見せる笑顔は今でも忘れぬ。

どんなに狭くてもプライベートな空間が確保されていて、寝ることができるスペースさえあれば十分だと思っていたので、自分みたいな貧乏人には最適だった。でも、アパートは木造で非常階段などない最上階の 4 階だったので、火事にでもなったら窓から脱出して隣の建物に飛び移るくらいしか方法がなかっただろう。一応、天井にスプリンクラーらしいものが付いていたが、実際に水が出てくるのかは分からなかった…。部屋には上下に開く窓がひとつあったが、風通しも良くなく、直射日光こそ当たらなかったが、夏は一瞬たりとも扇風機が手放せなく、以前このコーナーでクーラー事件の話をしたが、夏の時期は本当に過酷だった。そして、夏になると小さなゴキブリもテラホラと徘徊していたが、日本のゴキブリと比べるとかなり小さかったのであまり気にしなかった。

部屋の半分ほどのスペースをシングル・サイズの簡易ベットが占領し、スチーム・ヒーター、4 段の引き出しがあった古いタンス(ほとんどのスペースを CD が占めていた)、シンクに小さな冷蔵庫、その上には小さなガス・コンロがひとつ乗っていたが、それらは最初から部屋に備え付けられていたものだ。その他、自分で買った中古のテレビとビデオデッキ、一年中活躍したミニ扇風機。洋服は棚の下のハンガーにかけて吊る下げていた。そして、渡米直後に手に入れた中古のウッドベースが置かれていて、あとは棚の上に雑誌やレコードなどを並べていた。壁にはジャズなどミュージシャンのポストカードやポスター、ライブに関する新聞の切り抜きなどを所狭しと貼っていたが、上の写真に一部写っているように自分のジャズや音楽への熱い思いが詰まった部屋だったと思う。

とはいえ、ただでさえ狭いのに時間と共に少しずつ物も増えていき、何とか L 字型に通路が確保できていたが、部屋に居るときはほとんどベットが椅子代わりというか、ベットから一步踏み出せば、ほとんどの物に手が届く状況だった。一方の壁側は唯一隣の部屋と隣接していたが、幸い隣の部屋にはとてもお世話になったミュージシャン(ジャズ・ベーシスト)の方が住んでおり、真下は 3 階のバスルームだったので、音に気を使うことがなく済んだことは本当に助かった。

自分の部屋を訪れたほとんどの友人・知人が第一声に「オッ！？」「スゲー！？」「何この部屋！？」というような声を発した。こんな部屋に住んでいたこと、こんな部屋があること自体に驚いたようだが、自分にとっては最高の空間だった。

そんな訳で、むさ苦しい男が暮らしていた部屋の様子を語られても気持ち悪いかもしれないが、ここが自分のニューヨーク生活の拠点で、今でも時々この部屋で暮らしていたあの頃のことを思い出す…。尚、2001 年の 911 (アメリカ同時多発テロ事件)以降、マンハッタンの家賃はどれも高騰したようで、当時 303 ドルだったこの部屋の家賃が現在幾らなのかは分からないが、今でも変わらず 1 か月 303 ドル、そして、Sam が元気だったら嬉しい。